



# 環境・安全報告 品質保証体制

## 基本的な 考え方

お客様のニーズに応えた良質な製品を提供し、顧客満足を上させるとともに、経済活動を支える基盤としての社会インフラに貢献するため、継続的な改善に取り組んでいます。

## 品質保証体制

### 品質方針

確かなものづくりを通して、  
人と社会の生成発展に貢献する。

1. 望まれる確かな製品を提供し、顧客・利用者の信頼を築く。
2. 後世に評価される技を磨き、技の大切さを教え、伝える。
3. 現状に満足せず、熱意と向上心をもって、品質改善に挑戦する。

### ◆ 品質マネジメントシステム

当社は「確かなものづくり」で「人と社会の生成発展に貢献する」ため、ISO9001:2015に基づく品質マネジメントシステム(QMS)を運用しています。当社を取り巻く外部・内部状況(社会・規制・自然・活動・製品・能力等)を勘案しつつ、お客様のニーズや期待を把握した上で、設計・施工から引き渡しに至るまで品質管理体制を構築・運用することにより、継続的な改善と顧客満足の向上に取り組んでいます。

#### ■ 顧客満足向上を目的とした、品質管理活動の継続的改善



### ◆ 社長によるマネジメントレビュー

社長は、半期に一度品質マネジメントシステムが決められた通り実施されているかどうか、その適切性、妥当性、有効

性を確認し、戦略的な方向性(企業理念や行動指針)と一致させるために、見直しと必要な指示を行っています。

### ◆ 内部監査および外部審査の実施

本社、支店および現業事業所において業務の継続的な改善を図るため、毎年内部監査を実施しています。全ての業務が法令を遵守して実施されており、かつ社内のルールが効果的に運用され維持されているかどうかをチェックしています。また、当社のマネジメントシステムが適切に運用されているかどうか第三者の視点で問題点を洗い出し、組織内外への説明責任を果たすため、毎年外部の認証機関による審査を受けています。



内部監査の様子

### ◆ NIPPOグループ事例研究発表会

プレゼンテーション能力の向上と、各地で行われている有効で効果的な取り組み事例を社内に水平展開するため、隔年で事例研究発表会を開催しています。2018年の全国大会では、各支店で開催した発表会において優秀とされた論文から1~2編が選ばれ、全13編および海外支店から参考論文1編(英語による発表・質疑応答)が発表されました。発表内容は、舗装工事・土木工事・合材製造・建築等、様々な部門にわたって行われました。論文の内容・構成と発表時の分かりやすさ、質疑応答などを含めて厳正な審査の結果、最優秀賞、優秀論文賞、優秀プレゼンテーション賞および審査員特別賞の4人が上位入賞として表彰されています。



NIPPOグループ事例研究発表会



### 私のCSR 北海道支店 片岡 直之

試験所では、多数保有している試験機器によって提供した舗装について路面の滑りやすさや平坦性を測定し、舗装の品質を評価します。試験機器の精度は評価に影響するので、厳寒期の測定であっても試験機器が従来通り作動するよう定期校正や日常点検を着実に実施しています。また、得られた評価をスムーズに顧客や現場へフィードバックするために、試験業務の効率性向上にむけた試験機器の改良改善や補助器具等の検討も行っています。

# 環境・安全報告

## 環境マネジメントシステム

### 環境方針

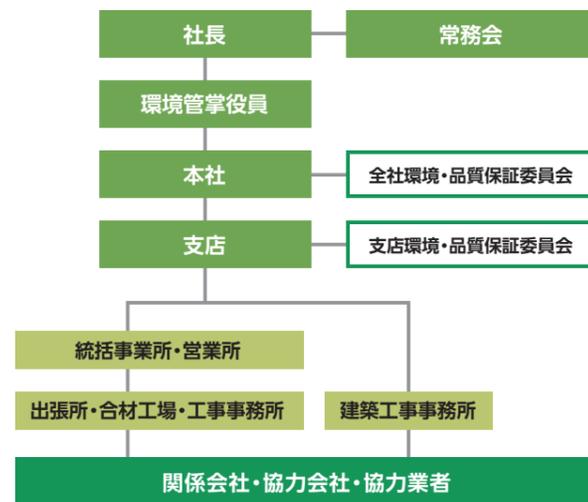
環境保護活動の継続的改善に努め、  
生物多様性を考慮し、  
「環境保護と経済活動の両立」する  
持続可能な社会の実現に貢献する。

1. 環境法令の遵守と社会的要求事項に対応して、  
環境に配慮した事業活動に取り組む。
2. 「地球温暖化対策」及び「循環型社会の構築」を  
基軸とした環境保護活動により  
環境負荷を低減する。

### 環境マネジメント体制

当社はISO14001:2015に準拠した環境マネジメントシステム(EMS)を運用しています。環境保護活動の継続的改善のため、会社をとりまく内外の課題や要望、環境法令や環境影響を考慮した環境方針を本社環境・品質保証委員会で審議し、全社に展開しています。全事業所はこれに基づき環境管理計画

#### ■ 環境マネジメント体制図



を策定し、地域の特性に応じた環境保護活動を推進しています。また、当社の環境マネジメントシステムも品質マネジメントシステムと同様に、第三者の視点で問題点を洗い出し、組織内外への説明責任を果たすため、毎年外部の認証機関により審査を受けています。

### 環境保護活動の取り組み

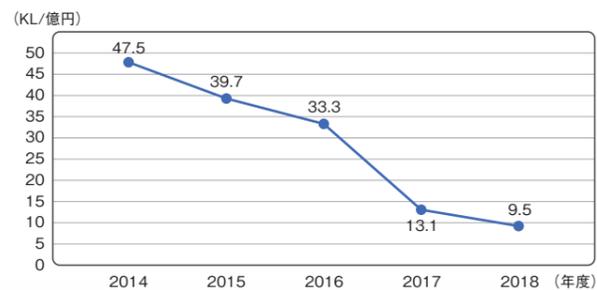
#### ◆ 環境法令の遵守

廃棄物処理法を始めとする関係法令の理解促進と遵守した業務遂行にあたるため、毎年6月に全ての従業員を対象として環境教育を実施しています。また、事業所や作業現場での環境点検を毎月実施するとともに、事業活動における遵守義務をまとめた「環境法令チェックリスト」に基づき事業所の遵守状況を年2回評価して必要な処置を実施することで、環境法令違反や環境事故を未然に防止する取り組みを行っています。

#### ◆ 地球温暖化防止対策

当社のエネルギー使用量の大部分を占める合材工場では、使用燃料の変更や設備更新などの改善を推進して、エネルギー使用量の削減に努めています。(P17.18参照)  
また、機械や材料の輸送エネルギー使用量を抑制するため、現場で発生する廃棄物の現地再生化工法の提案や運送効率の向上に努めています。

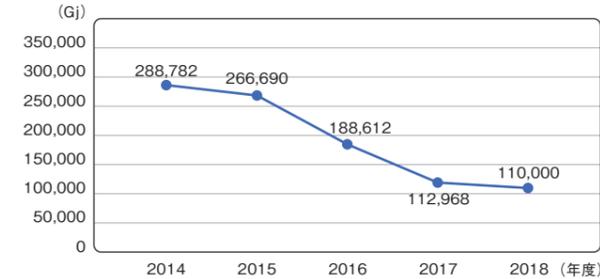
#### ■ エネルギー使用量原単位



### 基本的な考え方

当社はSDGsの目標達成に向け、持続可能な社会の実現に貢献し、限りある地球資源の有効活用と気候変動への対応は企業の社会的責任であるという認識の下、事業活動で使用するエネルギー量や排出される産業廃棄物の削減・リサイクルに向けた取り組みを、全社を挙げて行っています。

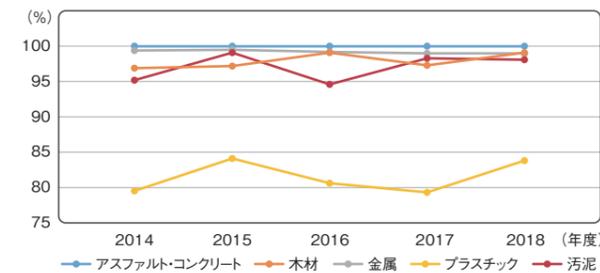
#### ■ 輸送エネルギー使用量



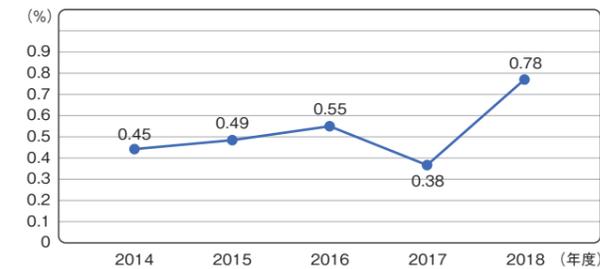
#### ◆ 循環型社会の構築

建設現場から発生する廃棄物の再生利用のため、アスファルトやコンクリート塊のリサイクル事業の運営や、発生したがれき類を搬出しないで、現地で再生化する再生工法の提案と施工を行っています。また、廃棄物の再生化を促進させるため、廃棄物の種類ごとに分別化を推し進め、最終処分として埋立等へ廃棄する量の低減を図っています。

#### ■ 種類別リサイクル率



#### ■ 最終処分率



年度	2014	2015	2016	2017	2018
総廃棄物量 (万t)	98.3	94.6	74.5	67.3	77.0
最終処分率 (%)	0.45	0.49	0.55	0.38	0.78

#### ◆ 環境負荷の低減

事業活動における環境への悪影響を低減させるため、CO<sub>2</sub>排出量抑制、路面温度上昇抑制、省資源・リサイクルなどの環境負荷の少ない工法を開発し、お客様に積極的に提案しています。

#### 技術情報

URL [https://www.nippo-c.co.jp/tech\\_info/enviro/index.html](https://www.nippo-c.co.jp/tech_info/enviro/index.html)

#### ◆ 生物多様性への配慮

生物生息環境の保全・創出に寄与し、環境負荷を低減するため、汚染された土壌や地下水を浄化する土壌浄化事業を行っています。

工事施工時には、低騒音・低振動仕様機械の優先的な使用や、稀少動植物の保全のために工事着工前調査、立ち入り禁止区域の設定、繁殖時期を考慮した工程調整や、舗装材料のダンプや施工機械に使用する付着防止剤に生分解性に優れた材料を使用するなど生物多様性に配慮した様々な取り組みを現場ごとに実施しています。

#### ■ 2018年度環境管理目標と実績

項目	目的	2018年度の目標	2018年度の実績	評価
環境法令の遵守	法令違反ゼロ	法令違反ゼロ	0件	○
		環境教育の実施 全従業員1回以上	全従業員 100%実施 (2,546人)	○
地球温暖化対策	エネルギー使用量 (原単位)の削減	2017年度比 1.0%削減 (13.0KL/億円 以下)	2017年度比 27.5%削減 (9.5KL/億円)	○
循環型社会の構築	産業廃棄物の 最終処分率低減	0.8%以下 (ゼロエミッションの 継続)	0.78% (ゼロエミッションの 継続)	○
環境負荷の低減	環境配慮型工法* の技術営業推進	110億円	158億円	○

\*環境配慮型工法とは「CO<sub>2</sub>排出量抑制、路面温度上昇抑制、省資源・リサイクル、土壌浄化に資する工法」とし、具体的には「遮熱性」「保水性」「エコ商品」「エコファイン」「表面処理」「クレイ系」「木質系」「天然芝」「FRB工法」「スタビ工法」の10工法および「土壌浄化」を対象としています。

### 私のCSR 本社 開発事業部 新井 理恵



開発事業部としては、分譲マンションを提供するという立場から、法令を遵守するのはもちろんのこと、それに加えて社会や環境に配慮した計画となるよう心掛けています。また、日々変わりゆく社会や技術の変化に対応し、お客様が今求めている「ニーズ」をいち早く捉えるための情報収集を行うように努めています。

### 私のCSR 中国支店 大竹 一輝



私の所属する事業所では、エコキャップ運動に取り組んでいます。回収したエコキャップを推進協会へ送付しリサイクルの促進、CO<sub>2</sub>排出量の削減、売却益で発展途上国の医療支援、障害者・高齢者雇用促進等へ役立てております。一人ひとりの思いやりが、社会貢献へとつながるように今後も継続して取り組みたいと思います。



# 舗装事業における環境保全活動

## 環境型リサイクルへの取り組み

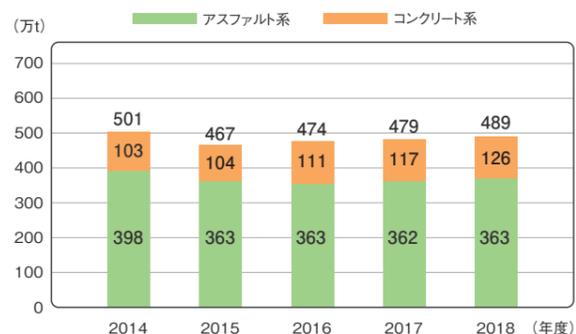
アスファルト合材工場では、資源の有効利用を図るため、建設副産物や他産業副産物のリサイクルに取り組んでいます。

### ◆ 建設副産物のリサイクル

当社は1970年代前半から、当時としては珍しかった「アスファルト舗装リサイクル技術」の研究に取り組み、現在の技術やシステムをほぼ確立して全国に展開しました。現在、全国に154カ所のアスファルト合材工場を保有していますが、このうち149工場でアスファルトやコンクリートのがれき類(建設副産物)を受け入れ、154工場で積極的に骨材として再利用し、再生アスファルト混合物、再生路盤材として製造・販売しています。

再生アスファルト混合物の製造比率は、2005年以降70%を超えており、再生資源の有効活用を推進しています。

### ■ 建設副産物受入量の推移



### ◆ 他産業副産物のリサイクル

1981年からは、家庭から出る一般廃棄物の焼却灰を処理して発生するゴミ熔融スラグをアスファルト舗装材料の一部として有効利用する研究を開始し、その技術を確立しました。

現在では、こうした取り組みを核に、全国の工場で、アスファルト舗装をその品質を低下させることなく、他産業から出る副産物を適正に処理して舗装材の一部に有効利用するなどの積極的な活動を行っています。

### ◆ アスファルト合材工場での環境・安全配慮

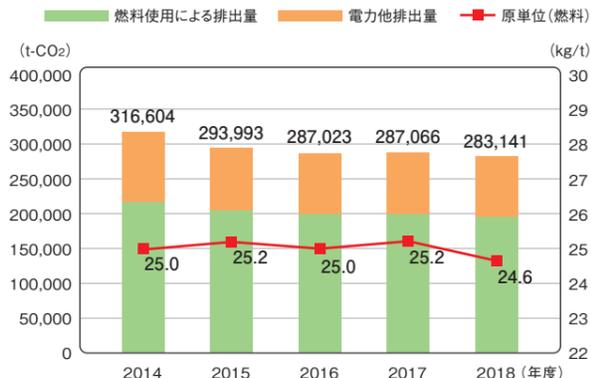
アスファルト合材工場では、化石燃料や電力などを使用してアスファルト混合物等を製造していますが、周囲の環境に悪影響を及ぼさないよう、細心の注意を払い、対策を行っています。

### ◆ CO<sub>2</sub>排出量の削減

アスファルト混合物の製造に伴って生じる二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を削減するため、燃料を重油類から都市ガスや灯油等へ徐々に切り替えを進め、省エネルギー型の設備や機器類も積極的に配備しています。2018年度末現在、都市ガス化した合材工場が22カ所、省エネ型の高効率バーナ(空気比が低く、広範囲の燃焼制御が可能)を導入した合材工場が96カ所となっています。



### ■ 合材工場CO<sub>2</sub>排出量の推移(グループ工場含む)



## 基本的な考え方

舗装工事やアスファルト混合物の製造事業では、様々な工程で排出物や廃棄物が生成されます。当社は持続可能な社会を実現するために環境負荷低減や資材リサイクルを促進します。

### ◆ 大気汚染対策

工場周辺の空気を汚さないよう、定期的に窒素酸化物や硫黄酸化物、ばいじん等の排出量を測定・管理しています。また、法令基準より高い性能の集じん機を整備し、製造工程の様々な箇所に、粉じんを飛散させないような設備等を設けるなどの対策を行っています。

### ■ アスファルト合材工場からの大気汚染物質排出量 (トン/年)

種類	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
窒素酸化物 (NO <sub>x</sub> )	103.1	84.6	96.0	80.4	72.9
硫黄酸化物 (SO <sub>x</sub> )	104.6	86.1	76.1	80.2	75.1
ばいじん	39.9	33.2	50.5	35.9	22.4

※上位50工場のサンプリングからの推計。



## 舗装現場での環境配慮

舗装工事の際の主な環境負荷には、施工機械等による騒音、排ガスによる大気汚染、CO<sub>2</sub>、産業廃棄物の排出などがあります。

### ■ 施工機械の環境対策整備状況 (台)

	2016年度			2017年度			2018年度		
	保有	対策	率(%)	保有	対策	率(%)	保有	対策	率(%)
排出ガス対策型	72	63	88	49	46	94	43	39	91
低騒音型	160	145	91	123	118	96	116	109	94

※グループ工事会社への機械売却により台数が減少。

### ◆ 施工機械の騒音・排出ガス対策

舗装工事に使用する施工機械を順次、環境負荷の少ない排ガス対策型・低騒音型に切り替えています。2018年度までに、保有機械の91%を排出ガス対策型に、94%を低騒音型に切り替えました。

対策済みの施工機械は、主に規制対象地域で使用していますが、対象地域以外でも積極的な使用を推進しています。

### ◆ CO<sub>2</sub>排出量の削減

施工機械や資材を運搬するダンプ、トラック等のアイドリングストップを推進しています。また、施工機械は更新時に、低燃費型に切り替えています。

### ◆ 産業廃棄物の排出管理

全ての部署、事業所で発生する産業廃棄物の分別を徹底するとともに、部署ごとに排出量を種類別に管理し、再資源化・省資源化計画を立てて実行しています。産業廃棄物量に占める最終処分量の割合は、2014年度が0.45%、2015年度が0.49%、2016年度が0.55%、2017年度が0.38%、2018年度が0.78%と目標とする0.8%を下回っています。

### ◆ 輸送行程での環境配慮

輸送行程での主な環境負荷は、ダンプ、トラック等の燃料消費に伴うCO<sub>2</sub>の排出と騒音です。

アスファルト混合物の材料となる骨材の運搬は、自動車輸送から海上輸送へ切り替えを進めており、一定量(全骨材使用量の約5%)を海上輸送にて行っています。2014年度18万トン、2015年度18万トン、2016年度14万トン、2017年度20万トン、2018年度18万トンの骨材を海上輸送により受け入れています。

また、ダンプ、トラック使用時には、アイドリングストップやエコドライブに努めるように、運送会社を指導しています。



私のCSR 中部支店 中野 純平

私は、環境安全・品質保証グループに所属しており、主に環境、品質保証、工事施工監査を担当しています。品質保証における内部監査では現業事業所のチェックと指摘を受けた部署のフォローを行い、工事施工監査では工事現場ごとに段階的な社内検査を実施し、改善点の是正を行い継続的な改善に取り組んでいます。これからも私の役割を通して「確かなものづくり」に貢献していきたいと思っております。



私のCSR 関西支店 三好 亜都子

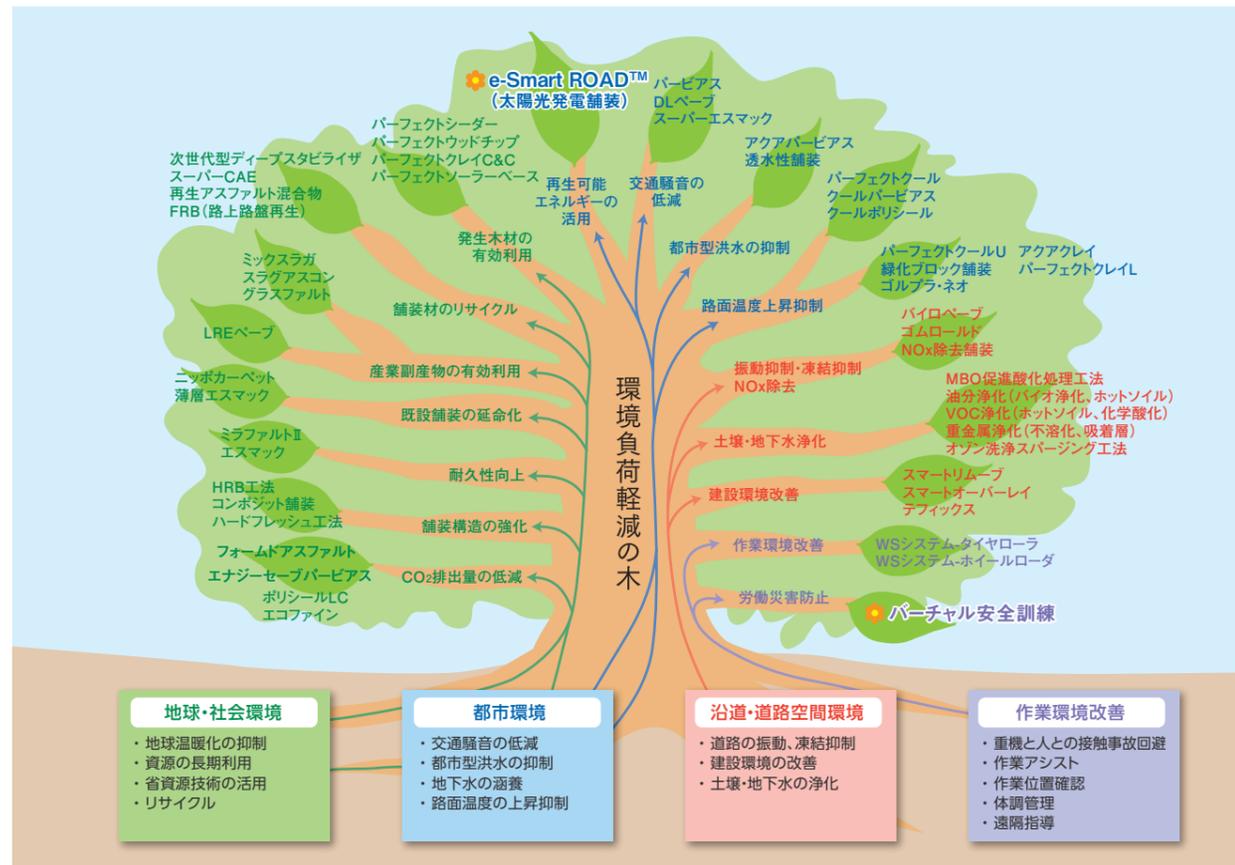
当事業所では昼休みに消灯すること、使用していない場所の電気・エアコンをOFFにすることを励行しています。他に月初の朝礼後には周辺道路、所内駐車場などの清掃活動を行い地域住民の方とのコミュニケーションも図りつつ、地域環境の美化にも努めています。



# 環境・安全報告

## 舗装事業における環境・安全対策技術

環境舗装・資材のラインナップ



### 再生可能エネルギーへの取り組み

#### ◆ 太陽光発電舗装[e-Smart ROAD™]

再生可能エネルギーは、環境負荷が少ないエネルギーとして世界的に注目されています。現在日本においては、その主力として、太陽光発電の積極的な導入が進められています。

当社は電気関連技術を持つ企業と共同で、太陽光発電舗装[e-Smart ROAD™]の実用化に取り組んでいます。太陽光発電舗装は、専用に開発した「舗装用太陽電池モジュール」を舗装表面に設置し、路面で発電する仕組みです。

太陽光発電舗装には、屋根上や地上に設置している一般的

な太陽電池モジュールが持つ発電性能に加えて、人やクルマが通行する道路舗装としての性能も求められます。太陽光発電舗装の上で、人が滑って転んだり、クルマがスリップして事故が起きたりしないように、モジュール表面には特殊な滑り防止処理を施しています。さらに、クルマのような重量物が上に乗っても、潰れたり割れたりしないように、モジュール表面の強度を高めています。また、太陽光発電舗装の開発と併せて、発電した電気の有効な利用方法についても検討を進めています。今般、新たに開発した「蓄電システム」は、当該舗装が発電した電気を効率的に溜めることができます。

通常時は、昼間に溜めた電気を夜間の街路灯や当社が開発

### 基本的な考え方

舗装事業では、事業活動の中での環境負荷低減だけでなく、材料・製品・舗装工法を通じた環境負荷低減にも力を入れるため、新しい環境技術の開発に努めています。当社は長年の取り組みで培われた独自の技術力を活かし、人・都市・地球環境に配慮した技術開発を進めています。

した区画線・横断歩道の自発光装置などに供給し、地域の安心・安全を支援します。また、本システムに採用している大容量の小型バッテリーは着脱可能なため、大規模災害発生時には避難所や医療施設における非常用電源として活用することも可能です。

現在、当社総合技術センター構内の重荷重車が走行する道路に試験舗装し、実証試験を行っています。本実証試験により、太陽光発電舗装の安全性、耐久性および発電性能の確認および向上を目指します。

当社は、環境負荷の軽減に向けて、このような新たな技術開発を進めるとともに、安心・安全なまちづくりにも貢献していきます。



### 舗装時の安全対策技術

#### ◆ バーチャルリアリティ(VR)を活用した安全教育の展開

道路舗装の現場では、バックホーやロードローラーなどの大型重機が頻繁に行き交っており、作業従事者がこれらの重機と接触した場合には重篤災害となる可能性があります。

当社では、重機との接触事故の悲惨さやその衝撃などをより現実に近い形で体感し、事故撲滅に向けた安全意識の高

揚を図ることを目的に、360度全地球カメラとヘッドマウントディスプレイを使用した当社独自のバーチャルリアリティシステムを構築しました。

360度全地球カメラは、1回の撮影で前後上下左右全方向のデータを1枚の画像に記録することができるカメラです。

ヘッドマウントディスプレイは、頭部に装着するゴーグル型のディスプレイです。ディスプレイ自体は小型ですが、ディスプレイに投影される映像は、目に近い位置で投影されるため、大型ディスプレイ並みの大迫力となります。

本システムでは、まず実際の道路舗装現場において、360度全地球カメラを設置したマネキンと重機を意図的に接触させ、臨場感ある映像を撮影します。次に、これをヘッドマウントディスプレイに投影して視聴することで、あたかも自分が重機と接触する瞬間を模擬体験することができます。

2018年4月より、当該システムを取り入れた安全訓練や社内研修を開催しています。受講者からは、「怖い!」「緊張で身が引き締まる!」などの感想が多くあり、安全教育におけるバーチャルリアリティ技術活用の有効性を確認しています。

当社は、労働災害の撲滅に向け、今回紹介したバーチャルリアリティ技術をはじめとする最新のIT技術を積極的に活用し、安全意識のさらなる高揚に努めていきます。



私のCSR 関西支店 成田 芳史

私は、工事部にて安全担当をしています。現場の安全を支援することにより現場の品質向上につなげたいと日々活動しています。日々の活動で心掛けていることは「当たり前のことを高いレベルで今までの慣習にとらわれず、熱意を持って挑戦すること」です。お客様目線で現場をパトロールし、品質向上に貢献していきます。



私のCSR 九州支店 蔭山 海人

私が管轄している事業所は、勤務している事務所から距離が離れた場所にも点在しています。事業所巡回を行う際には、車に乗る時間も長くなってしまいうため、ドライブレコーダーの活用や指さし呼称の実施で常に緊張感を持って運転し、事故を起こさないように心掛けています。



# 環境・安全報告 戦略事業における環境・安全配慮

## 開発事業における環境・安全配慮

開発事業部門では、環境と安全に配慮し、永く安心していただける住環境の提供を柱とした不動産事業を全国で展開しています。

### ■ 不動産事業推進、展開ポリシー

従来の発想に捕らわれず、時代の一步先を見つめながら、エンドユーザーの立場で

**安らかさ** **心地よさ** **豊かさ**  
の創造を追求し、常に歩み続けます。

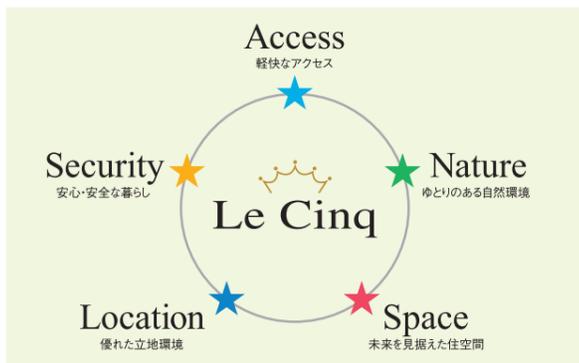
価値ある商品企画を必須業務として

**環境重視思想** **安全性の高い商品の供給** **資産価値の高い街・住まいの創造**  
をコンセプトとして事業推進しています。

### ◆ マンション分譲事業

マンション事業は、5つの価値を重視し、「ル・サンク(Le Cinq)シリーズ」として展開しています。

### ■ 5つの価値を追求するル・サンクシリーズ



地域特性を把握し、未来を見据え、敷地分析、建物計画、吟味した設備仕様を整えた「資産価値の高い」マンションの開発供給に取り組んでいます。

現在、マンション供給総戸数は9,000戸となり、三大都市圏を中心に札幌、盛岡、仙台、広島、福岡、那覇の主要都市にて事業を展開しています。

### ◆ 環境面からの要請に配慮した取り組み

マンション分譲事業では、周辺環境・地域特性を配慮した様々な取り組みを実施しています。再開発事業では、既成市街地を計画的に整備し、都市機能の更新や環境の改善を図っています。従来より以下のような設備を備えた住宅供給に努めてきました。

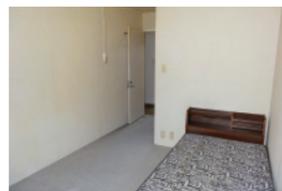
エネルギー利用の効率化	省エネルギー商品	地球温暖化防止
エコジョーズ、エコキュート等の採用	共用部LED照明の採用、LOW-E 複層ガラスの採用	緑豊かな植栽計画の採用、屋上緑化の採用

また、近年では環境ばかりではなく、保育施設併設を計画するなど社会的な要請にも応えるべく取り組んでいます。

### ◆ 持続可能な社会への貢献

これまで市街地再開発事業等に取り組み、歴史ある街並みの活性化に取り組んできました。2018年度は新たな取り組みとして「リノベーション事業」に参画しました。

これは使用可能ではあるものの、これまでの用途で使用するのには難しい建物を、より魅力ある住居として甦らせ、お客様に提供するものです。当社として最初の事業が2018年度に好評のうちに完了となりました。当社は今後も魅力ある住まいを提供し、新たな住民が集うことで街を活性化し、地域コミュニティが持続することをお手伝いしていきます。



施工前



スケルトン



リノベーション後



棟内モデルルーム

## 基本的な考え方

当社は「建築事業」「開発事業」「土壌浄化事業」も展開しています。いずれの戦略事業でもNIPPOらしい独自の環境・安全面の対応を行うために、様々な技術開発や取り組みを行っています。

## 環境(土壌浄化)事業における環境・安全配慮

### ◆ 土壌汚染対策の取り組み

土壌汚染対策法は、2010年の法改正から8年が経過し新たな課題が明らかになったことを受けて、2018年4月と2019年4月に2段階での法改正が施行されました。私たちは法改正にも迅速に対応し、保有する工法の中から土質・工事期間・周辺環境等、様々な要素を考慮し、環境・安全に配慮した提案・施工を行います。

また私たちは土壌汚染対策法の施行前から土壌・地下水浄化事業に取り組んでおり、2019年3月末現在までに、浄化工事1,484件、土壌調査2,656件の実績があります。

### ◆ 環境に配慮した土壌浄化工法の開発

私たちは環境に配慮した土壌浄化工法として、ワインの製造時に出るワインの搾りかすを原料とした、揮発性有機化合物(VOC)分解微生物活性化剤「GRM(グレープリサイクルマテリアル)」を開発しました。GRMは固体状のワインの搾りかすを液体化し、土壌中に浸透しやすくした製品です。この材料は、ワインの搾りかすに豊富に含まれる有機酸等により土壌に生息する微生物を活性化させ、土壌汚染の原因物質を分解します。ワインの搾りかすのみを原料としているため、他の工法に比べ環境への負荷を大幅に低減できます。

私たちは、お客様の安心につながる環境に配慮した工法や商品の開発をこれからも継続して行っていきます。



ワインの搾りかすとGRM

## 建築事業における環境・安全配慮

建築事業では計画・設計段階から建物の環境負荷低減に取り組んでおり、施工段階では、具体的な目標値を定めて、建設廃棄物の削減を進めています。

### ◆ 設計段階での提案・実施事例

設計においては、建築環境総合性能評価システム(CASBEE)を考慮した環境配慮設計を行い、建物のライフサイクル全期間におけるエネルギー使用量の削減を図っています。

具体的には、太陽光発電、壁面・屋上緑化、熱負荷コントロール、太陽光追尾センサー、LED照明等をお客様に提案しています。2018年8月から運用を開始したNIPPO新本社ビルでは、外壁に用いた高性能ダブルスキンの効果が高く、CASBEE総合評価で最高の「S」ランクを獲得しました。



新本社ビル外観



高出力型LED照明採用事例



屋上太陽光発電設置事例

### ◆ 施工段階での実施事例

施工段階では、プレキャストコンクリート工法による廃棄型枠の削減、鉄筋ロールマット工法などのユニット工法採用による省エネルギー化を図っています。これらは、品質の安定化や安全確保、技能工不足への対応にも寄与しています。



PC床版施工事例



鉄筋ロールマット工法事例

## 私のCSR 関東建築支店 野崎 正幸



私が従事している事業所では、環境保全活動推進、産業廃棄物削減、CO<sub>2</sub>排出量削減を環境活動方針として掲げています。作業所においては、ペーパーレス、リサイクルを推進、廃棄物の分別処理、低燃費型建設機械の使用を促進し、作業員や周辺の方々とコミュニケーションを取りながら、環境保全活動を行っています。

## 私のCSR 本社 営業第二部 古川 元信



営業担当は工事図面や仕様書、見積書など日々多くの書類を扱います。2018年8月本社移転の引越しを契機に、紙媒体から電子データでの文書管理に努めています。また印刷する場合は2アップ・4アップ印刷や、両面印刷を利用することで紙の使用量を抑えています。身近にできることから環境配慮を行っています。



# 環境・安全報告 安全管理

## 基本的な 考え方

重機作業、掘削作業、高所作業等を伴う当社の事業では、「人命尊重」を基本理念として安全衛生管理を実行しています。災害事故撲滅に向けて、安全作業の徹底と安全な企業風土の醸成を目指しています。

## 安全衛生管理方針

### 2019年度 安全衛生管理方針

#### 〔方針〕

人命尊重を基本理念とし、全員参加で労働安全衛生マネジメントシステムを実行し、熱意を持って安全衛生管理水準の向上を目指す。

1. 安全作業5つの誓い項目を遵守し、労働災害を防止する。
2. 労働安全衛生法令及び安全衛生管理規程類を遵守する。

#### 〔目標〕

1. 重機・車両災害、墜落・転落災害、土砂崩壊災害、非定常時災害を防止し死亡災害「ゼロ」を達成する。
2. 災害事故件数を削減する。(2018年度比10%以上削減)
3. 快適な職場環境づくりを推進し、健康の保持増進を図る。

安全作業5つの誓い		
重機作業	人との分離を実施したか	ヨシ!
車両後退	誘導合図を確認したか	ヨシ!
土砂崩壊	土止めはしたか	ヨシ!
墜落・転落	安全帯を使っているか	ヨシ!
非定常時作業	装置は止めたか	ヨシ!

2019年度安全衛生管理方針に則り、安全衛生目標を達成するために、次の項目について全社で重点的に取り組んでいます。

## 安全衛生管理水準の向上

### ◆ 安全作業5つの誓い

2010年より過去の重大な災害のリスクアセスメントを行い「安全作業5つの誓い」を制定しています。未だに5つの誓いが守られず重大な災害が発生しているため、各項目毎に「誰が」「いつ」「何処で」「何をするか」を明確にした教育資料を作成し、社員・関係請負人への教育を徹底しています。

### ◆ 安全パトロールの実施

事業所長、統括事業所、支店、本社がそれぞれパトロールを計画的に実施し、指摘があれば是正させ、改善結果を確認します。特に「安全作業5つの誓い」についての教育内容の確認と実施状況の把握、作業手順・作業計画内容の確認を行い、重大

な災害防止に取り組んでいます。

### ◆ 労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)

当社の労働安全衛生マネジメントシステムは、建設業災害防止協会からコスモス認定基準に適合しているとされ、2013年3月の初の認定以来、2019年3月に2回目の更新認定を受けました。店社と現場が一体となり自主的に「P:計画-D:実施-C:評価-A:改善」で安全衛生管理を行っています。

## 安全衛生に関する教育

本社、支店では、現場担当者各々の経歴に合わせて毎年安全管理教育を行っています。また、工事担当者等には「安全作業5つの誓い」に関する教育を行い、大規模工事の関係請負人に対しては事業者責任に関して教育しています。

## 安全意識の高揚

### ◆ ヒヤリハット活動の実施

現場従事者からヒヤリとしたりハットしたりした体験を積極的に収集し、好事例を朝礼等で共有することで、危険の芽を摘み取るとともに、安全意識の向上を図っています。

### ◆ 安全標語の募集

従業員、グループ会社、協力業者から「安全作業5つの誓いが守られず不安全な状態や行動を見逃さない」ための標語を募集し、2,240作品(1,092人)の応募がありました。全社中央安全衛生委員会で最優秀作品を選定し、安全大会等で唱和するなど安全意識の高揚を図っています。

## 災害発生状況(度数率・強度率)

		2016年度	2017年度	2018年度
NIPPO [下請け工事含む]	度数率	1.39	1.45	1.21
	強度率	0.41	0.07	0.46
建設業	度数率	0.64	0.81	1.09
	強度率	0.11	0.18	0.30

度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で災害の頻度を表す。  
強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数で災害の重さを表す。



### 私のCSR 北海道支店 瀧 亮博

私は、建築工事の施工管理業務において「災害ゼロ」を第一に、関係請負人と一体となって関係法令を遵守し「職場の危険・災害リスクの低減」に取り組んでいます。日常点検や安全設備の充実により不安全状態による「職場の危険」を取り除くこと。不安全行動による「災害リスク」に関して安全訓練教育の継続活動による意識付けを行い、災害ゼロを達成します。